

2025 年 8 月 3 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒450 番

『御旨のままに』

聖書⇒イザヤ書 41 章 10 節（MM 姉）

『恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。』

聖書⇒マタイによる福音書 28 章 20 節

『あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。』

礼拝讃美歌⇒383 番

『安かれわが心よ』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 8 章 32 節（SK 兄）

『わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか。』

（祈り）

《パン裂き》

聖書⇒マタイによる福音書 26 章 26~30 節（NH 兄）

『一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡

して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。言うておくが、わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。

』

礼拝讃美歌⇒148 番

『主の御旨により』

(式)

礼拝讃美歌⇒155 番 (旧 169 番)

『神の子羊は』

《建徳》

聖書⇒マルコによる福音書 11 章 24~30 節 (NH 兄)

『だから、言うておく。祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる。また、立って祈るとき、だれかに対して何か恨みに思うことがあれば、赦してあげなさい。そうすれば、あなたがたの天の父も、あなたがたの過ちを赦してくださる。』もし赦さないなら、あなたがたの天の父も、あなたがたの過ちをお赦しにならない。一行はまたエルサレムに來た。イエスが神殿の境内を歩いておられると、祭司長、律法学者、長老たちがやって来て、言った。「何の權威で、このようなことをしているのか。だれが、そうする權威を与えたのか。」イエスは言われた。「では、一つ尋ねるから、それに答えなさい。そうしたら、何の權威でこのようなことをするのか、あなたたちに言おう。ヨハネの洗礼は天からのものだったか、それとも、人からのものだったか。答えなさい。』

聖書⇒マルコによる福音書 11 章 12~23 節

翌日、一行がベタニアを出るとき、イエスは空腹を覚えられた。そこで、葉の茂ったいちじくの木を遠くから見、実がなっていないかと近寄られたが、葉のほかは何もなかった。いちじくの季節ではなかったからである。イエスはその木に向かって、「今から後いつまでも、お前から実を食べる者がないように」と言われた。弟子たちはこれを聞いていた。それから、一行はエルサレムに來た。イエスは神殿の境内に入り、そこで売り買いしていた人々を追い出し始め、両替人の台や鳩を売る者の腰掛けをひっくり返された。また、境内を通して物を運ぶこともお許しにならなかった。そして、人々に教えて言われた。「こう書いてあるではないか。『わたしの家は、すべての国の人の／祈りの家と呼ばれるべきである。』／ところが、あなたたちは／それを強盜の巢にしてしまった。」祭司長たちや律法学者たちはこれを聞いて、イエスをどのようにして殺そうかと謀つ

た。群衆が皆その教えに打たれていたもので、彼らはイエスを恐れたからである。夕方になると、イエスは弟子たちと都の外に出て行かれた。翌朝早く、一行は通りがかりに、あのいちじくの木が根元から枯れているのを見た。『そこで、ペトロは思い出してイエスに言った。「先生、御覧ください。あなたが呪われたいちじくの木が、枯れています。」そこで、イエスは言われた。「神を信じなさい。はっきり言うておく。だれでもこの山に向かい、『立ち上がって、海に飛び込め』と言ひ、少しも疑わず、自分の言うとおりになると信じるならば、そのとおりになる。』

聖書⇒申命記 34 章 7 節

『モーセは死んだとき百二十歳であつたが、目はかすまず、活力もうせてはいなかった。』

聖書⇒サムエル記下 17 章 27~29 節

『ダビデがマハナインに着くと、ラバ出身のアンモン人ナハシュの子ショビ、ロ・デバル出身のアミエルの子マキル、ロゲリム出身のギレアド人バルジライとが、寝具、たらい、陶器、小麦、大麦、麦粉、炒り麦、豆、レンズ豆、炒り麦、蜂蜜、凝乳、羊、チーズを食糧としてダビデと彼の率いる兵に差し出した。兵士が荒れ野で飢え、疲れ、渴いているにちがいないと思ったからである。』

礼拝讃美歌⇒394 番 (NH 兄)

『恵み溢るる』

《建徳要旨》